

日本学術会議九州・沖縄地区会議主催

学術講演会

入場無料

《事前申込不要》

どなたでも
ご参加できます

南九州における ウイルス感染症と その制御に向けた挑戦

鹿児島を中心とする南九州地域は成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)の原因ウイルスであるHTLV-1の高度蔓延地域である。また、HTLV-1はHAMとよばれる中枢神経疾患の原因にもなっている。一方、南九州はわが国でも有数の畜産地域であり、鳥インフルエンザや人獣共通感染症の制御が地域の重要な課題である。さらに、最近ではダニ咬傷による致死的なウイルス感染症である重症熱性血小板減少症候群(SFTS)が報告され、南九州は患者数が最も多い。そこで本講演会では、地域住民の安心と健康に対する脅威となっているこれらのウイルス感染症とその制御を目指す取り組みについて、それぞれの研究者が研究の最新動向などについて解説する。

平成30年

9月10日 月

14:00~16:15

[場所]

鹿児島大学稲盛会館
キミ&ケサメモリアルホール
鹿児島市郡元1丁目21番24号



プログラム

司会 / 秋葉 澄伯 (九州・沖縄地区会議会員、鹿児島大学名誉教授)

14:00~14:10

開会挨拶

武内 和彦 (日本学術会議副会長)

前田 芳實 (鹿児島大学学長)

14:10~16:05

講演

- ①「人類は成人T細胞白血病・リンパ腫を克服できるか?」
石塚 賢治 (鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センター 教授)
- ②「HTLV-1で起こる神経難病:HAM」
久保田 龍二 (鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センター 教授)
- ③「鳥インフルエンザの制御を目指して」
小澤 真 (鹿児島大学共同獣医学部 准教授)
- ④「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)とその治療薬に関する研究」
馬場 昌範 (鹿児島大学副学長・難治ウイルス病態制御研究センター 教授)

16:05~16:15

閉会挨拶

君塚 信夫

(日本学術会議第三部会員・九州・沖縄地区会議代表幹事、
九州大学大学院工学研究院 教授)

[お問い合わせ先] 鹿児島大学研究推進部研究協力課 TEL.099-285-3225

主催 / 日本学術会議九州・沖縄地区会議 共催 / 鹿児島大学 後援 / 鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会、公益財団法人日本学術協力財団